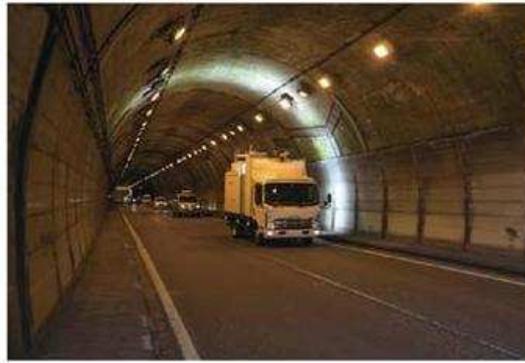


中部地方整備局高山国道事務所は13日から16日まで、管理する国道のトンネルと橋梁合計5つを定期点検し、その



レーザーキャナ計測状況

際、新技術を現場で試行し成果を確認した。

このうち、中央復建コンサルタンツ・テイコクJVが担当する国道41号大原山トンネル(岐阜県高山市)では走行型

## 新技術試行し点検

### トンネル、橋梁5カ所

高山国道

計測車などの新技術を活用。「デジタル打音検査」「レーザー打音検査」によるトンネル断面変形計測を用いて構造物を点検した。

デジタル打音検査は、ハン

マーの打撃で発生したコンクリートの振動をAE(アコースティック・エミッション)センサーで計測する。従来は点検員が打音で表面空洞などを判定したが、この

トンネル断面変形計測は、3次元レーザーキャナを搭載した計測車両(MIMMR、MIMM)で、走行しながらトンネル内の断面を計測できるため、通行規制の省略と作業時間の大幅短縮が可能だ。

このほか橋梁では、ドローンを活用し、跡津川橋(同県飛騨市)、二ツ屋橋(同)、牛牧谷橋(同県高山市)、帯雲橋(同県下呂市)の4カ所を点検した。

今後、同事務所は、道路施設点検の省力化・効率化につながる新技術を積極的に取り入れる方針だ。



建設通信新聞

2020年10月28日 012面 01版 No.04